

平成22年度

事業報告書

平成22年4月 1日から

平成23年3月31日まで

学校法人 久留米信愛女学院

目 次

I 法人の概要

1. 学校法人の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 久留米信愛女学院の教育方針・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 設置する学校、学科及び所在地・・・・・・・・・・・・・・ 3
4. 学生・生徒・園児数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
5. 役員・教職員の人数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

II 事業の概要

1. 教育事業の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 短期大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 中学校・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2. 管理運営の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 理事会・評議員会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 施設設備の整備状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

III 財務の概要

1. 平成22年度決算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 資金収支計算書・資金収支内訳表・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - 消費収支計算書・消費収支内訳表・・・・・・・・・・・・・・ 21
 - 貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
2. 経年比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - 資金収支計算書の経年比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - 消費収支計算書の経年比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
 - 貸借対照表の経年比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - 主要財務比率の経年比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
3. 財 産 目 録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
4. 監事の監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

I 学校法人の概要

1. 沿革

本学院は、カトリックの精神に基づく人生観をもった女子教育を目的として設立されたミッションスクールです。

設立母体は、1859年フランスにおいて創立された「ショファイユの幼きイエズス修道会」であり、総本部をフランスに置き、ミッション活動を行っています。

国内では、1877年（明治10年）に事業を開始し、現在日本管区本部を兵庫県宝塚市に置き、全国各地の約30カ所において、教育事業と社会福祉事業を行っています。

1961年（昭和36年）に設立された久留米信愛女学院は、幼稚園・中学校・高等学校・短期大学を併設した長い歴史と伝統をもつ女子教育機関です。

1877年 7月	幼きイエズス修道会会員、フランスより来日
1930年 3月	聖心幼稚園（久留米市日吉町3丁目9番地、現久留米カトリック教会内）設置
1961年 2月	久留米信愛女学院高等学校設置認可
1962年 3月	聖心幼稚園の設置者を宗教法人幼きイエズス修道会から学校法人久留米信愛女学院へ変更認可
1964年 4月	聖心幼稚園を本学院敷地内に移転、久留米信愛女学院幼稚園に名称変更
1968年 2月	久留米信愛女学院短期大学食物栄養科設置認可
1981年 1月	短期大学幼児教育科設置認可
1988年 4月	短期大学食物栄養科を生活学科に幼児教育科を幼児教育学科に科名変更
1990年 3月	久留米信愛女学院中学校設置認可
1993年 11月	短期大学生活学科を改組し、生活文化学科と食物栄養学科を設置認可
2001年 12月	短期大学情報社会学科設置認可
2003年 4月	短期大学食物栄養学科を健康栄養学科に科名変更 生活文化学科廃止
2007年 4月	短期大学情報社会学科をビジネスキャリア学科に科名変更
2010年 4月	短期大学健康栄養学科をフードデザイン学科に科名変更
2010年 10月	学院創立50周年記念式典挙行

2. 教育方針

本学院は、カトリックの精神にもとづく人生観を育て、全人格的開発を目指します。一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図るとともに、物事を正しく判断して行動し、さらに豊かな心をもって社会貢献をする、明朗で健康な人を育成することを、教育の方針としています。

<信愛教育5つの柱>

1. キリストの教えに根ざした教育
2. 一人ひとりを大切にす教育
3. 能力の開発を目指す教育
4. 自己形成を促す教育
5. 社会貢献への態度を形成する教育

<学院のモットー>

『一つの心一つの魂』

幼きイエズス修道会の創立者レーヌ・アンティエは、『一つの心一つの魂』という言葉を残しました。幼きイエズス修道会を設立母体とする本学院は、創立者の心を心として、心と力を合わせ、交わりと分かち合いを通して信愛の教育を実現する共同体です。家庭的絆の精神である「一つの心一つの魂」をモットーに、学生・生徒・園児を中心に、教職員・保護者・卒業生が共に歩み、共働していきます。

3. 設置する学校、学科等及び所在地

学 校 名	学 科 名	所 在 地
久留米信愛女学院短期大学	幼児教育学科	福岡県久留米市御井町 2278 番地の 1
	フードデザイン学科	
	ビジネスキャリア学科	
久留米信愛女学院高等学校	普 通 科	福岡県久留米市御井町 2278 番地の 1
久留米信愛女学院中学校		福岡県久留米市御井町 2278 番地の 1
久留米信愛女学院幼稚園		福岡県久留米市御井町 2278 番地の 1

4. 学生・生徒・園児数の状況

平成 22 年 5 月 1 日現在の学生・生徒・園児数は以下のとおりです。

短期大学

学 科 名	入学定員	1 年次	2 年次	計(a)	収容定員 (b)	充足率 (a/b)
幼 児 教 育 学 科	100	78	71	149	220	0.68
フーズデザイン学科	40	38	22	60	90	0.67
ビジネスキャリア学科	40	34	28	62	70	0.89
計	180	150	121	271	380	0.71

高等学校・中学校

学 校 名	入学定員	1 年次	2 年次	3 年次	計(a)	収容定員 (b)	充足率 (a/b)
久留米信愛女学院 高等学校	200	89	98	103	290	600	0.48
久留米信愛女学院 中学校	60	66	60	63	189	180	1.05

幼稚園

学 校 名	入学定員	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計(a)	収容定員 (b)	充足率 (a/b)
久留米信愛女学院 幼稚園	—	88	93	73	254	320	0.79

5. 役員・教職員の人数

平成22年5月1日現在の役員・教職員数は以下のとおりです。

(1) 役員

理事 7人 (理事長1人、常勤理事3人、非常勤理事3人)

監事 2人 (非常勤監事2人)

(2) 評議員 15人

(3) 教職員数

部 門	教 員			職 員		
	専任	兼任	合計	専任	非常勤	合計
法 人				1		1
短 期 大 学	29	28	57	17	6	23
高 等 学 校	32	7	39	9	5	14
中 学 校	15	0	15	1	1	2
幼 稚 園	17	5	22	3	2	5
合 計	93	40	133	31	14	45

II 事業の概要

1 教育事業の実施状況

[久留米信愛女学院短期大学]

I、短期大学の概要

1、設置する学科

幼児教育学科

健康栄養学科・フードデザイン（平成22年度入学生より名称変更）

ビジネスキャリア学科

2、学科の入学定員、学生数の状況

学科名		21年度	22年度	備考
幼児教育学科	入学定員	120	100	平成22年度入学生より 定員20名減
	収容定員	240	220	
	在籍者数	168	149	
	充足率(%)	70	68	
健康栄養学科 フードデザイン 学科	入学定員	50	40	平成22年度入学生より 定員10名減
	収容定員	100	90	
	在籍者数	59	60	
	充足率(%)	59	67	
ビジネス キャリア学科	入学定員	30	40	平成20年度入学生より 定員10名増
	収容定員	60	70	
	在籍者数	56	62	
	充足率(%)	93	89	

3、卒業生、学位授与の状況について 平成23年3月

	幼児教育学科	健康栄養学科	ビジネスキャリア学科	合計
平成20年度入学生	4	1	0	5
平成21年度入学生	70	23	28	121
在籍者数	69 (退5)	21 (退2除1)	28 (0)	118
卒業資格なし	1	0	0	1
卒業生(短期大学士)	68	21	28	117

II、事業の概要

1、はじめに

学院創設50周年を迎え、建学の精神の涵養、信愛教育の推進を徹底するとともに、教育・研究の高度化に努め、「大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）」に採択され、文部科学省からも高く評価された。課題である学生確保に関しては、「未来経営戦略推進経費（定員割れ改善計画）」の中間審査を受け、財政支援の2年間継続が決定された。

2017年の短期大学設置50周年に向けて、「50周年プラン」と名づけた将来計画を策定することが3月の教職員研修会で決定した。

2、平成22年度の重点的取り組み

(1)「定員割れ改善計画」

平成19年3月、「学生募集に関する特別プロジェクト」（50周年プロジェクト）を立ち上げ、「定員割れ改善計画書」（平成19年度～平成23年度）を作成し、文部科学省の「定員割れ解消等の改善に取り組んでいる大学等に対する支援」事業に申請し採択され、5年間の財政支援を受けることになった。平成22年度に私立大学経常経費補助金特別補助「未来経営戦略推進経費」（定員割れ改善促進特別支援経費）の中間評価が行なわれた。その結果、理事会のガバナンスの確立の必要性が評価委員から指摘され、その改善に努めることが決定され、2年間の補助金継続が認められた。

(2)「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

平成21年度に文部科学省の学生支援推進プログラム（学生支援GP）に本学の「卒業生のマンパワーを生かしたキャリア形成・就職支援プログラム」が採択された（財政支援期間は2年間）。22年度は、10,227,000円の財政支援を受け、卒業生の力を統合したキャリア形成・就職支援を展開した。

成果は以下の通りである。

	幼児教育学科	健康栄養学科	ビジネスキャリア学科	全学科
卒業者数	68	21	28	117
進学者数	3	1	1	4
就職希望者数	58	19	25	102
就職内定者数	58	19	21	98
就職内定率（%）	100.0	100.0	84.0	96.1

(3)「大学教育拡充のための戦略的大学連携支援プログラム」

平成21年度に文部科学省の「大学教育拡充のための戦略的大学連携支援プログラム」に久留米市内5高等教育機関が連携した「地域共創のための高度人材育成基盤整備－『筑後川流域総合大学』化に向けて」が採択され、3年間の財政支援を受けることになった。

連携校は久留米工業大学・久留米大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女学院短期大学・久留米高等専門学校である。平成22年度の財政支援は、34,300,000円であった。

(4) 「大学生の就業力育成支援事業」

平成22年度に文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に本学の「就業力育成支援10年間継続プログラム」が採択され、5年間（平成22年～平成26年）の財政支援を受けて新規事業を開始することになった。短期大学の選定件数は19校（申請件数83件）であり、九州では3校が選定された。平成22年度は20,000,000円の財政支援を受け、本取組を開始した。

3、幼児教育学科

(1) 保育士養成課程認定

平成23年度入学生から実施される保育士養成課程の新カリキュラムに対するカリキュラム変更の認定申請を行い、厚生労働省から課程認定を受けた。

(2) 教職課程のカリキュラム変更教員免許更新講習の実施

保育士養成課程のカリキュラム変更に伴い、教職課程の科目名変更等の教職課程の変更を行った。

(3) 職業訓練の受託

職業訓練（保育士養成科）の委託事業の申請を行い、平成23年度から2年間の事業を受託した。

(4) 地域への子育て支援

「信愛つどいの広場」（週3回）、子育て支援講座（年間10回）を実施するほか、つどいの広場における育児相談、「出張おもちゃライブラリー」など、地域の子育て支援施設と連携した活動を行い、地域への子育て支援を行うと共に、学生に子育て支援のフィールドワークの機会を提供した。

(5) カリキュラム外の資格取得講座の実施

「おもちゃインストラクター養成講座」、「幼児体育指導者2級検定講座」「折紙講師資格取得準備講座」「赤十字幼児安全法支援員養成講座」を本学で実施した。

(6) 就職支援

就職部と連携して、保育職面接特訓講座などを実施し、就職率100%を達成した。

4、フードデザイン学科

(1) 「フードデザイン学科」による公開講座

本年度は、学科の名称変更に伴い、フードデザイン学科の紹介を兼ねて「食空間の演出」と題し、テーブルコーディネート、シュガークラフトを中心に、以下の4講座を開講した。参加者数はのべ76名であった。

第1回「たかが紅茶・されど紅茶・さすが紅茶！」4月24日（土）

第2回「おうちで楽しくスイーツデコ」6月26日（土）

第3回「砂糖で作るクリスマス飾り」11月13日（土）

第4回「春迎えの支度を楽しむ」12月4日（土）

(2)「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、新装およびクリーニングを行ったフードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の3団体に施設開放を行った。

①久留米大学講義「食と健康」における調理実習（4回）

②久留米市学校給食会研修会（2回）

③福岡県栄養士会久留米分会および地域活動栄養士協議会合同研修会（1回）

(3)「久留米まち旅博覧会 2010 年秋」への参画

「来年の干支、うさぎちゃん シュガークラフトに挑戦！」と題し、11月13日（土）、本学フードデザイン室を会場とし開催した。参加者10名は、平成23年の干支のうさぎをモチーフにシュガークラフト体験を行った。

5、ビジネスキャリア学科

(1) 教育

①学科の教育目標である「ビジネス知識やマナーを身につけ、コンピュータ機器を柔軟に使いこなせることに加え、豊かな人間性を持ち併せ社会に貢献できるビジネスウーマン育成」を達成するため、学生一人一人の能力・個性に応じた指導を行った。

②カリキュラム改正

教養科目の全学的見直しに伴い、「心理学」「基礎統計学」「生活と環境」「ヨーロッパ文化」の4科目が3学科共通の基礎教育科目として設定された。これを受け、学科独自に設定していた「人間教養科目群」の大幅見直しを中心にカリキュラムの改正を行った。

(ア)「人間教養科目群」を「社会教養科目群」へ名称変更

(イ)「社会教養科目群」の新設科目として「数的理解」「時事問題」

(ウ)「社会教養科目群」への移動科目として「カラーコーディネーション」

(エ)「社会教養科目群」の既実施科目「総合教養論」を「生活と教養」へ名称変更

(オ)「カラーコーディネーション」が「社会教養科目群」へ移動したことに伴い、アドバンスコースとしての「カラーコーディネートコース」を廃止

(カ) ITスキルコースの「パソコン実務演習」を「WEBデザイン」へ名称変更

23年度入学生からのカリキュラム変更として理事会から承認された。

(2) 研究

①各教員がそれぞれの専門分野において論文投稿や学会発表等を行った。

②学科内共同研究として紀要の共同執筆を行い投稿した。

③後述の「ビジネスキャリア学科による現代教養講座（全7回）」実施後、報告書を作成した。

(3) 社会的活動

- ①「ビジネスキャリア学科による現代教養講座（全7回）」と題した市民向け公開講座を実施した。
- ②昨年に引き続き、(株)ハイマート久留米、久留米市役所商工労働部、久留米商工会議所と連携して、信愛クリスマスショップ「メルシィ」の企画運営を行った。学生が中心となって企画し、地域社会との交流を深め貢献することができた。

4、おわりに

「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、これまで本学が選定されたG P事業は4件となった。短期大学としては全国トップレベルであり、本学の大学教育の質の高さがあらためて示された。しかしながら、平成18年度から始まった定員割れは依然として解消できず、大きな課題となっている。さらに、2018年からは18歳人口の大幅な減少期に突入する。その前年の17年は短期大学設置50周年に当たる。その50周年に向けて教職員の心をひとつにして、知恵と汗を絞り課題解決に取り組む必要がある。

【久留米信愛女学院中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

創立 50 周年を迎え、「信愛教育」の原点に立ち返りつつ次の 50 年への第一歩をしるす年と位置づけ、地域に根ざした奉仕の精神の涵養と世界に開かれた国際的視野の育成を図るとともに、進路実現のための学力の定着と活気に満ちた学院作りに全力を傾注する。

この重点目標のもと、創立 50 周年という記念すべき年を生徒・教職員一体となって祝い、新たな次の 50 年につながる元気な学院作りを進めるため、日常のあらゆる教育活動を通じて、全教職員が真摯に 1 年間取り組んできました。

特に、50 周年記念式典においては、いきいきとした生徒の活躍が前面に出せたこともあり、信愛ならではの「生徒が主役として」来賓をもてなすというスタンスが表せたのではないかと思います。

地域の評価としての側面を持つ入学者数については、過去 3 年間は次のとおりです。

	平成 21 年度入学者数		平成 22 年度入学者数		平成 23 年度入学者数	
中学校	特進	27	特進	23	特進	21
	特進 S	20	特進 S	25	特進 S	23
	医進	13	医進	18	医進	17
計		60		66		61
高等学校	進学	25	進学	25	学際特進	39
	特進	32	特進	19		
	S 特進	19	S 特進	11	S 特進	16
	特進一貫	24	特進一貫	26	特進一貫	34
	医進一貫	3	医進一貫	8	医進一貫	20
計		103		89		109
中高計		163		155		170

2 教育活動

(1) 各コースの再編については、中学全学年で 2 コース 3 クラス編制をとり、成績を伸ばした生徒は特進文理クラスから特進文理 S クラスへ、特進文理 S クラスから医進クラスへとクラス変更を行い、各コースとも学習意欲の向上に効果をもたらしました。高校では、第 1 学年がこれまでになく小規模になってしまいましたが、全学年の各クラスとも落ち着いた学習環境を維持し、まとまりのある学年経営ができました。

(2) グローバルな思考が可能な生徒の育成のため、「英語に強い信愛」作りを一層進めまし

た。LL教室のCALLシステムの活用、医進コースの検定外教科書「プログレス 21」の継続使用、英語検定に加えてのTOEICの受験、中学1・2年の「イングリッシュ・サマーキャンプ」の実施、中学3年生のニュージーランド語学研修の実施、高校2年生のカナダ修学旅行でのホームステイ体験など、英語に興味・関心を持って意欲的に学ぶ生徒の育成にさらに力を注ぎました。

- (3) 医進コースから現役で国公立大学医学部合格者を出すため、また理系に強い生徒の育成のための最適なカリキュラム研究・進路指導・入試問題研究を継続的に深化させてきました。また、医進コースの縦の情報交換の場を作って、現状把握や課題点の共有化を図りました。
- (4) 「生活と学習の記録」による指導を通して、平日3時間以上、休日6時間以上の家庭学習の定着に引き続き努めてきました。中学校「学力推移調査」や高校「スタディーサポート」では、家庭学習の状況が良好に向かい、全体的な学力も向上してきました。
- (5) 「創立50周年記念」を冠した「文化発表週間」、「体育祭」、「校内合唱コンクール」、「信愛夢バザー」は、生徒の自主性を育て達成感や感動を得ることのできる行事として、前年度以上の充実振りを見せることができました。部活動では、実績のある合唱部、吹奏楽部、バスケットボール部、新体操部等の強化を進め、特にバスケットボール部は県大会出場の常連となりつつあり、さらに上を目指すところまできました。
- (6) 中学校・高校の総合学習の時間を利用した礼法指導を通して、また茶道同好会・華道同好会などの部活動や日々の指導を通して、「良き日本女性」として我が国の伝統文化を受け継いだ立ち居振る舞いができる生徒を育てていくことを、引き続き教育活動に積極的に組み込んできました。特に、「信愛しぐさ」と銘打って、端正な服装・身嗜み、適切な言葉遣い、明るくハキハキとした挨拶などを常に心掛けるよう意識させてきました。
- (7) 生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施やきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。平成22年度末の合格状況（第48期卒業生102名）は次の通りです。

国公立大学	15名（前年比－4名）
私立大学	144名（前年比＋18名）
短期大学	29名（うち信愛短大18名、前年比－2名）
専門学校	7名（前年比－2名）
就職	2名（前年比＋2名）

3 広報活動

現実の厳しい状況をなかなか打ち破れないでいますが、企画広報部を中心に全教職員による広報活動を展開しました。残念ながら、志願者数・入学者数の安定的確保にはいまだ至っ

ておりません。

中学校では、過去3年間定員60名を確保してきたこともあって、平成23年度より1学年の定員を90名に変更し、中高一貫教育を強化しつつ学校全体の活性化を図ることに指針を定めたところですが、平成23年度の中学校受験者数が前年度よりも17%増となったにもかかわらず、入学者は61名（前年比-5名）と伸ばしきれませんでした。

高校では、筑後地区での新しいシステムでの入試の元年に当たりますが、各校軒並み受験者数を減らしている中、ほとんど唯一本校のみ前年度より13%増、入学者も一貫生が増えた分も合わせて109名（前年度比+20名）となりました。

- (1) 『久留米信愛女学院だより』（ウェブページ委員会・地域連絡係発行）や『カリヨンの鐘』（後援会係発行）などを通じて、継続的に本校の教育活動内容を発信しました。また、ウェブページ（ホームページ）をボリューム、スピードともに充実させました。
- (2) 「アンティエ・カップ英語暗誦大会」は、5回目も順調に成功をおさめ、地域の小学生の英語教育に寄与するものとしても定着しつつあると思われます。また、「ゆめタウン」での久留米市私学展も、3校での催しとなりましたが、天候が悪かったにもかかわらず多くの人を集めることができました。
- (3) 公民館などへの訪問を通じて、地域への学校行事の案内を行いました。地域への浸透は不十分で、さらに試行錯誤を続ける必要があります。
- (4) 企画広報部生徒募集係のメンバーで中学校入試を中心に筑後地区全般の学習塾訪問を、全教職員で高校入試のための中学校訪問を行い、広報活動をさらに強化しました。

学習塾は、中学校入試で昨年度の実績以上に多くの受験生を送ってくれましたが、福教大附属中学校をはじめとする他校への入学者が増え、23年度入学者は昨年度を下回ってしまいました。

高校入試に関しては、市内の中学校の本校に対する理解と信頼を十分に回復するまでには至っていませんが、それでもわずかに受験者数・入学者数ともに増加させることができました。

4 その他

- (1) 全校での宗教行事・ミサに加え、中学1年から高校3年まで学年単位で発達段階に応じたテーマを決めて神父様を招いて行った「学年ミサ」や、職員対象のミサ・神父様の講話なども定着し、職員・生徒ともに「信愛教育」の理念の更なる徹底を図ってきました。
- (2) 教職員の資質向上のため、授業研修（「授業学び合い・磨き合い」や「生徒による授業評価」等）の充実に努めてきましたが、さらに効果的な方策を探る必要があります。
- (3) 生徒の安全確保のため、社会や地域の情報を迅速に収集し、適切に対処する体制作りに引き続き努力してきました。携帯メールによる保護者向け情報発信「信愛お知らせメール」

は、地域企業の協賛で円滑に運営することができました。

- (4) 個人情報の保護と情報開示については、今後とも積極的かつ慎重に取り組んでいきます。
- (5) 信愛短大をはじめ、聖マリア学院大学・京都ノートルダム女子大学・福岡女子大学・久留米大学・立命館アジア太平洋大学などとの高大連携については、十分に効果的に進めることができませんでした。
- (6) 「学校評議員会」は例年通り 2 回開催し、本校の授業の質についての評価や、郊外での生徒の状況などについての情報交換を、経年比較を交えながら行いました。
- (7) 教育活動の改善・工夫のため生徒及び保護者の学校への満足度調査では、数値は昨年度に比べて概ね上昇し、満足度は増していると思われます。
- (8) 後援会及び同窓会との連携強化の一環として始めた、後援会の歴代会長をはじめとする役員の方々や同窓会の役員の方々と本校教員との情報交換会「百合の会」も 3 回目を開催しました。また、同窓会との連携としては、11 月に「教職についている卒業生の集い」、1 月に「信愛成人式」、3 月に「MESSAGE 28 (卒業後 10 年の先輩による講話)」を催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「女性の一生をサポートする学院」をアピールすることができました。「八女地区保護者会」以外のネットワーク構築については、「鳥栖地区」・「西国分・諏訪校区」・「朝倉地区」で保護者会を催すことができました。
- (9) 幼稚園から短期大学までの「久留米信愛女学院の発展を願い、育てる会」(仮称)については、動きが不十分なままになってしまいました。

[久留米信愛女学院幼稚園事業報告書]

【平成22年度の目標達成について】

1. 本園の教育理念である「キリストの教えに根ざした教育」(神の愛を伝える)と「モンテッソーリ教育による全人格的成長を目指す教育」の二つの柱を教職員が心に留め、自ら進んで行動できる園づくりに取り組んだ。

「キリストの教えに根ざした教育」(神の愛を伝える)

- ・保護者とのかかわりの中で、園生活で子ども達が常に尊重され、愛されているという実感に満たされている。という情報を得た。
- ・教職員が、子ども達の成長を喜び、また子ども達から受ける感動が常に神への賛美と祈りにつながっていることを実感できた。

「モンテッソーリ教育による全人格的成長を目指す教育」

- ・子ども達への援助は、子ども達一人ひとりのモンテッソーリ教育プログラムの進捗計画に沿って達成できた。
- ・モンテッソーリの自己活動参観も毎年実施しているが、各クラス7～8人の少人数参観のため、自分の子どもの様子をよく観ることができると好評であった。

2. アンジェリーナ親子教室の充実 (1歳半～満3歳) 親子で週2回、火・木登園

- ・職員が撮影し成長記録を作成している。(親子クッキング・行事の作り物の作成・モンテッソーリ教具でのお仕事の様子等)
保護者に大好評のようだ。
- ・満3歳の誕生日月に希望者のみ縦割りクラスへ移行した子どもが22年度は9名であった。
- ・見学は随時受付、保護者に視聴覚で感じていただけるよう工夫を凝らし信愛教育の説明会を実施した。少人数制での実施だったため保護者にも好評であった。

3. つぼみ組の充実(1歳半～満3歳) 子どものみ月水金、および月～金登園・3コース編成

- ・モンテッソーリ教育の日常・言語・クッキング・宗教・音楽・体操を実施。
- ・体操を導入。毎週水曜日(コスモ体操クラブの専門講師による体操指導)
子ども達に大好評。

- ・満3歳の誕生日月に縦割りクラスへ移行した子どもが22年度は36名であった。
- ・働く母親の増加に伴い、毎日夕方6時までの3コース希望者が増加傾向。
- ・毎月一回参観日を設けた。1歳半からのモンテッソーリ教育の説明、信愛教育の説明を実施。(パワーポイント活用)
- ・見学は随時受付。

※22年度つぼみ組・アンジェリーナクラスを通過せず、外部より直接入園した園児は9名であった。

4. 信愛広場（無料未就園児クラス）

- ・第1と第3土曜日に未就園児を招いて親子クッキング・工作・リトミック・お楽しみ会・誕生会等を開催し、信愛教育の紹介を実施。
- ・コスモスポーツクラブの専門講師による体操指導を導入。
- ・信愛教育の紹介(教育理念・教育方針の4つの柱)
 - ・モンテッソーリ女史の紹介。
 - ・モンテッソーリ教具の紹介。
 - ・モンテッソーリ教具を使ってお仕事をする子ども達の紹介。
 ◎募集期間のみにならず年間を通して説明会を実施。
- ・信愛広場参加者の名簿作成とともに、必ず次回の参加を徹底して呼びかけた。しかしながら参加者は30名程に留まった。
- ・前年度参加者が引続き今年度も参加いただくような広報活動が不十分だった。
- ・信愛広場を通して23年度募集人数確保に全力を尽くしたが、23年度信愛広場から入園へつながったのは、少人数であった。
- ・今後、信愛広場からつぼみ組、アンジェリーナクラスを経て入園への流れの確立。また、信愛広場での確保人数目標を60名～70名とし入園児の確保へとつなげたい。

2. 管理運営の実施状況

1) 理事会・評議員会の開催状況

理事会	H. 22. 5. 25	①平成 21 年度事業報告及び収支決算承認について ②平成 22 年度第一回補正予算承認について ③短期大学学則変更について ④経営改善計画について
	H. 22. 9. 10	①短期大学学則変更について ②学院の将来構想、財務運営について
	H. 22. 9. 16	①健康栄養学科の科名変更に伴う寄附行為変更について
	H. 22. 10. 5	①グランドデザインと中・長期計画の承認 ②理事会の管理運営の強化 ③経営改善の取組
	H. 22. 11. 16	①平成 22 年度大学生の就業力育成支援事業について ②短期大学学則変更について ③理事会の管理運営の強化について ④全教職員研修会の開催について
	H. 22. 12. 21	①平成 22 年度短期大学遠隔地奨学生について ②幼稚園職員の退職金率の変更について ③財務について ④寄附行為の条項変更について ⑤学院経営協議会について ⑥幼・保一元化の問題について
	H. 23. 1. 18	①短期大学学則変更について ②経営協議会からの要望・提案事項の検討について
	H. 23. 2. 22	①中学校特別奨学生制度の導入について ②一般事業主行動計画の策定について ③平成 23 年度人事について ④財務について ⑤学院運営管理について
評議員会	H. 23. 3. 15	①平成 22 年度補正予算承認について ②平成 23 年度事業計画及び収支予算承認について ③短期大学の耐震補強工事に伴う借入金承認について ④平成 23 年度収支予算議決について ⑤寄附行為の条項変更及び認可申請について ⑥平成 23 年度人事について ⑦人事異動に伴う後任評議員の選任について ⑧学院の運営管理について
	H. 22. 5. 25	①平成 21 年度事業報告について ②収支決算承認について ③平成 22 年度第一回補正予算承認について
	H. 22. 9. 16	①健康栄養学科の科名変更に伴う寄附行為変更について
	H. 23. 3. 15	①平成 22 年度補正予算承認について ②平成 23 年度事業計画及び収支予算承認について ③短期大学の耐震補強工事に伴う借入金承認について ④平成 23 年度収支予算議決について ⑤寄附行為の条項変更及び認可申請について

2)施設設備の整備状況

平成 22 年度の主な施設設備については下記のとおり整備しました。

部 門	明 細	金 額	備 考
短期大学	①モンテッソーリ演習室空調機器取替	871,500 円	GP
	②フードデザイン給食管理実習室冷蔵庫取替	367,500 円	
	③図書館外部階段塗装	1,365,000 円	
	④図書館貸出システム	5,200,000 円	
	⑤キャリアカウンセリング室改修工事	6,216,000 円	
	⑥短期大学校舎・体育館耐震補強設計	2,121,000 円	
高等学校	①高校校舎耐震補強・外壁塗装工事	66,444,000 円	
	②図書館貸出システム	5,200,000 円	
中学校	①図書館貸出システム	5,200,000 円	
幼稚園	①幼稚園園舎耐震補強・外壁塗装工事	32,128,950 円	
	②デジタル BD レコーダー・TV	446,250 円	
	③図書館貸出システム	483,900 円	
	④渡り廊下増築工事	2,992,500 円	

Ⅲ 財務の概要

1. 平成22年度決算の概要

平成22年度は校舎・体育館の耐震診断の結果に基づき、園児・児童・生徒の安全確保を図るため高等学校校舎、幼稚園園舎の耐震補強工事を実施しました。短期大学1号館及び体育館についても平成23年度に耐震補強工事を実施の予定です。

学校法人の計算書類は資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表及び付属明細表からなっています。資金収支計算書は当会計年度の資金の流れと現状を表し、消費収支計算書は消費収支の均衡状態により経営状況を、貸借対照表は資産・負債・基本金及び収支差額によって財政状況を表します。

① 資金収支計算書

収入の部では、昨年に引き続き主要な収入財源である学生生徒等納付金収入に加え、昨今の世界経済情勢の影響を受けて資産運用収入も減少しました。資金収支決算総額は補助金収入の増により前年度比で3億1,829万円増加して、18億9,439万円になりました。支出の部では、今年度も人件費及び経費の削減に努め、次年度繰越支払資金は前年度より7,812万円増加して4億8,346万円となりました。

② 消費収支計算書

消費収支計算書には、現金を伴わない現物寄付金、退職給与引当金、減価償却費などが計上されています。消費収支決算額は帰属収入が11億1,593万円となり、基本金組入額1億2,498万円を控除した消費収入が9億9,094万円となりました。消費支出は教育研究経費・管理経費に建物等固定資産の減価償却額1億1,708万円が加算されるため、合計で11億3,113万円となり、当年度消費収支の差額は1億4,018万円の支出超過となっています。なお平成23年度に耐震補強工事が完了するため校舎改築資金である第2号基本金3億円の取崩しを行い、翌年度繰越消費収入超過額は4億3,685万円となりました。

③ 貸借対照表

平成22年度末の資産総額は前年度より2,363万円減少して75億2,080万円になりました。主な原因は建物等固定資産の減価償却による期末残高の減少です。一方、負債総額も借入金が増加して5億7,697万円になりましたが、当年度末の正味財産は前年度より減少して69億4,382万円となりました。

資金収支計算書

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

<総括表>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	551,619,000	552,295,700	△ 676,700
手数料収入	9,227,000	9,692,750	△ 465,750
寄付金収入	53,211,000	53,648,076	△ 437,076
補助金収入	402,735,800	403,531,877	△ 796,077
国庫補助金収入	150,190,000	150,392,000	△ 202,000
経常費補助金	102,876,000	102,876,000	0
その他の国庫補助金	47,314,000	47,516,000	△ 202,000
福岡県補助金収入	250,478,700	250,438,500	40,200
経常費補助金	245,764,000	245,764,000	0
授業料等軽減補助金	4,364,700	4,384,500	△ 19,800
その他の補助金	350,000	290,000	60,000
久留米市補助金収入	2,067,100	2,701,377	△ 634,277
資産運用収入	28,120,000	28,047,514	72,486
事業収入	34,992,300	36,640,721	△ 1,648,421
雑収入	26,632,600	27,369,136	△ 736,536
前受金収入	136,846,000	157,716,500	△ 20,870,500
その他の収入	413,269,934	413,421,207	△ 151,273
資金収入調整勘定	△ 172,453,600	△ 193,311,750	20,858,150
前年度繰越支払資金	405,343,654	405,343,654	0
収入の部合計	1,889,543,688	1,894,395,385	△ 4,851,697
支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	726,197,468	726,124,998	72,470
教育研究経費支出	209,835,000	196,291,007	13,543,993
管理経費支出	96,881,500	85,732,518	11,148,982
借入金等利息支出	6,295,000	6,000,529	294,471
借入金等返済支出	26,418,000	26,416,824	1,176
施設関係支出	100,741,000	100,725,450	15,550
設備関係支出	33,373,000	32,558,644	814,356
資産運用支出	250,010,000	249,768,587	241,413
その他の支出	12,836,420	12,836,420	0
〔予備費〕	(3,670,659)		16,329,341
	16,329,341		
資金支出調整勘定	△ 25,524,900	△ 25,521,035	△ 3,865
次年度繰越支払資金	436,151,859	483,461,443	△ 47,309,584
支出の部合計	1,889,543,688	1,894,395,385	△ 4,851,697

資金収支内訳表

平成22年4月 1日から

平成23年3月31日まで

収入の部

<総括表>

(単位 円)

部 門 科 目	短期大学	高等学校	中学校	幼稚園
学生生徒等納付金収入	262,392,600	111,499,850	74,646,250	103,757,000
手数料収入	5,310,300	2,825,185	1,293,265	264,000
寄付金収入	4,000,000	34,516,090	2,948,118	2,413,218
補助金収入	134,048,700	143,397,977	61,375,000	64,710,200
国庫補助金収入	133,103,000	637,000	0	16,652,000
経常費補助金	102,876,000	0	0	0
その他の国庫補助金	30,227,000	637,000	0	16,652,000
福岡県補助金収入	0	142,671,500	61,330,000	46,437,000
経常費補助金	0	138,287,000	61,330,000	46,147,000
授業料等軽減補助金	0	4,384,500	0	0
その他の補助金	0	0	0	290,000
久留米市補助金収入	945,700	89,477	45,000	1,621,200
資産運用収入	10,472,863	8,534,875	3,391,954	5,442,459
資産売却収入	0	0	0	0
事業収入	15,334,176	5,665,939	3,019,862	12,223,892
雑収入	11,480,119	925,035	181,440	7,207,842
借入金等収入	0	0	0	0
計	443,038,758	307,364,951	146,855,889	196,018,611

支出の部

<総括表>

(単位 円)

部 門 科 目	短期大学	高等学校	中学校	幼稚園
人件費支出	294,083,075	232,169,757	96,511,493	78,547,402
教育研究経費支出	83,955,924	52,141,477	21,934,845	38,258,761
管理経費支出	31,931,441	19,248,999	9,761,817	8,565,172
借入金等利息支出	2,191,798	3,808,731	0	0
借入金等返済支出	9,044,246	17,372,578	0	0
施設関係支出	2,121,000	64,386,000	0	34,218,450
設備関係支出	18,521,074	5,814,638	5,500,482	2,156,170
計	441,848,558	394,942,180	133,708,637	161,745,955

消費収支計算書

平成22年4月 1日から

平成23年3月31日まで

<総括表>

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	551,619,000	552,295,700	△ 676,700
手数料	9,227,000	9,692,750	△ 465,750
寄付金	55,161,000	56,038,681	△ 877,681
補助金	402,735,800	403,531,877	△ 796,077
国庫補助金	150,190,000	150,392,000	△ 202,000
經常経費補助金	102,876,000	102,876,000	0
その他の国庫補助金	47,314,000	47,516,000	△ 202,000
福岡県補助金	250,478,700	250,438,500	40,200
經常経費補助金	245,764,000	245,764,000	0
授業料等軽減補助金	4,364,700	4,384,500	△ 19,800
その他の補助金	350,000	290,000	60,000
久留米市補助金	2,067,100	2,701,377	△ 634,277
資産運用収入	28,120,000	28,047,514	72,486
資産売却差額	0	0	0
事業収入	34,992,300	36,640,721	△ 1,648,421
雑収入	28,949,600	29,686,096	△ 736,496
帰属収入合計	1,110,804,700	1,115,933,339	△ 5,128,639
基本金組入額合計	△ 126,520,000	△ 124,985,988	△ 1,534,012
消費収入の部合計	984,284,700	990,947,351	△ 6,662,651
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	723,398,468	723,326,378	72,090
教育研究経費	307,102,000	294,213,913	12,888,087
管理経費	116,700,500	105,165,090	11,535,410
借入金等利息	6,295,000	6,000,529	294,471
資産処分差額	663,922	662,235	1,687
徴収不能引当金繰入額(又は徴収不能額)	1,766,400	1,766,400	0
〔予備費〕	(2,130,890)	/	7,869,110
	7,869,110		
消費支出の部合計	1,163,795,400	1,131,134,545	32,660,855
当年度消費支出超過額	179,510,700	140,187,194	/
前年度繰越消費収入超過額	277,039,940	277,039,940	/
基本金取崩額	300,000,000	300,000,000	/
翌年度繰越消費収入超過額	397,529,240	436,852,746	/

消費収支内訳表
平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで
消費収入の部

<総括表>

(単位 円)

部 門 科 目	短期大学	高等学校	中学校	幼稚園
学生生徒等納付金	262,392,600	111,499,850	74,646,250	103,757,000
手数料	5,310,300	2,825,185	1,293,265	264,000
寄付金	4,371,495	35,407,333	3,412,445	3,076,758
補助金	134,048,700	143,397,977	61,375,000	64,710,200
国庫補助金	133,103,000	637,000	0	16,652,000
経常費補助金	102,876,000	0	0	0
その他の国庫補助金	30,227,000	637,000	0	16,652,000
福岡県補助金	0	142,671,500	61,330,000	46,437,000
経常費補助金	0	138,287,000	61,330,000	46,147,000
授業料等軽減補助	0	4,384,500	0	0
その他の国庫補助金	0	0	0	290,000
久留米市補助金	945,700	89,477	45,000	1,621,200
資産運用収入	10,472,863	8,534,875	3,391,954	5,442,459
資産売却差額	0	0	0	0
事業収入	15,334,176	5,665,939	3,019,862	12,223,892
雑収入	11,480,119	3,241,995	181,440	7,207,842
帰属収入合計	443,410,253	310,573,154	147,320,216	196,682,151
基本金組入額合計	△ 6426789	△ 82209343	△ 512657	△ 35270919
消費収入の部合計	436,983,464	228,363,811	146,807,559	161,411,232

消費支出の部

<総括表>

(単位 円)

部 門 科 目	短期大学	高等学校	中学校	幼稚園
人件費	292,177,783	232,169,757	101,496,817	78,818,870
教育研究経費	125,003,173	87,037,046	32,003,951	50,169,743
管理経費	43,719,685	23,888,839	10,739,835	9,068,324
借入金等利息	2,191,798	3,808,731	0	0
資産処分差額	186,664	16,710	851	458,010
徴収不能額	1,766,400	0	0	0
消費支出の部合計	465,045,503	346,921,083	144,241,454	138,514,947

貸借対照表

平成23年3月31日

<総括表>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	6,975,154,798	7,045,579,532	△ 70,424,734
有形固定資産	3,592,977,693	3,575,704,741	17,272,952
その他の固定資産	3,382,177,105	3,469,874,791	△ 87,697,686
流動資産	545,646,807	498,857,534	46,789,273
資 産 の 部 合 計	7,520,801,605	7,544,437,066	△ 23,635,461
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	353,611,946	372,579,012	△ 18,967,066
流動負債	223,367,420	212,834,609	10,532,811
負 債 の 部 合 計	576,979,366	585,413,621	△ 8,434,255
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	6,118,969,493	5,993,983,505	124,985,988
第2号基本金	0	300,000,000	△ 300,000,000
第3号基本金	300,000,000	300,000,000	0
第4号基本金	88,000,000	88,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	6,506,969,493	6,681,983,505	△ 175,014,012
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	436,852,746	277,039,940	159,812,806
消費収支差額の部合計	436,852,746	277,039,940	159,812,806
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	7,520,801,605	7,544,437,066	△ 23,635,461

2. 経年比較

① 資金収支計算書の経年比較

(単位 円)

科 目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
学生生徒等納付金収入	665,220,050	576,276,478	552,295,700
手数料収入	9,223,120	9,244,400	9,692,750
寄付金収入	12,083,209	11,080,168	53,648,076
補助金収入	370,652,040	362,006,067	403,531,877
国庫補助金収入	116,163,000	107,489,000	150,392,000
経常費補助金	114,528,000	94,012,000	102,876,000
その他の国庫補助金	1,635,000	13,477,000	47,516,000
福岡県補助金収入	251,766,040	251,625,867	250,438,500
経常費補助金	248,534,000	248,315,000	245,764,000
授業料等軽減補助金	3,041,100	3,178,800	4,384,500
その他の補助金	190,940	132,067	290,000
久留米市補助金収入	2,723,000	2,891,200	2,701,377
資産運用収入	88,427,943	41,543,395	28,047,514
資産売却収入	423,896,000	0	0
事業収入	34,550,169	34,825,183	36,640,721
雑収入	71,515,775	76,842,410	27,369,136
前受金収入	156,256,000	148,156,000	157,716,500
その他の収入	47,883,257	106,869,113	413,421,207
資金収入調整勘定	△ 269,053,050	△ 228,107,200	△ 193,311,750
前年度繰越支払資金	481,204,842	437,369,220	405,343,654
収入の部合計	2,091,859,355	1,576,105,234	1,894,395,385
人件費支出	851,556,987	810,335,478	726,124,998
教育研究経費支出	163,377,424	180,337,737	196,291,007
管理経費支出	76,562,708	71,832,662	85,732,518
借入金等利息支出	8,967,902	7,359,488	6,000,529
借入金等返済支出	34,170,161	34,454,105	26,416,824
施設関係支出	6,363,000	5,784,292	100,725,450
設備関係支出	13,454,442	11,126,808	32,558,644
資産運用支出	490,609,118	47,255,390	249,768,587
その他の支出	16,800,503	12,818,849	12,836,420
資金支出調整勘定	△ 7,372,110	△ 10,543,229	△ 25,521,035
次年度繰越支払資金	437,369,220	405,343,654	483,461,443
支出の部合計	2,091,859,355	1,576,105,234	1,894,395,385

② 消費収支計算書の経年比較

(単位 円)

科 目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
学 生 生 徒 等 納 付 金	665,220,050	576,276,478	552,295,700
手 数 料	9,223,120	9,244,400	9,692,750
寄 付 金	14,160,057	13,783,014	56,038,681
補 助 金	370,652,040	362,006,067	403,531,877
国庫補助金	116,163,000	107,489,000	150,392,000
経常費補助金	114,528,000	94,012,000	102,876,000
その他の国庫補助金	1,635,000	13,477,000	47,516,000
福岡県補助金	251,766,040	251,625,867	250,438,500
経常費補助金	248,534,000	248,315,000	245,764,000
授業料等軽減補助金	3,041,100	3,178,800	4,384,500
その他の補助金	190,940	132,067	290,000
久留米市補助金	2,723,000	2,891,200	2,701,377
資 産 運 用 収 入	88,427,943	41,543,395	28,047,514
事 業 収 入	34,550,169	34,825,183	36,640,721
雑 収 入	72,066,630	81,576,173	29,686,096
帰属収入合計	1,254,300,009	1,119,254,710	1,115,933,339
基本金組入額	△ 38,635,849	△ 36,816,048	△ 124,985,988
消費収入合計	1,215,664,160	1,082,438,662	990,947,351
人 件 費	852,658,913	808,243,821	723,326,378
教 育 研 究 経 費	260,934,336	282,633,953	294,213,913
管 理 経 費	96,013,189	92,993,461	105,165,090
借 入 金 等 利 息	8,967,902	7,359,488	6,000,529
資 産 処 分 差 額	15,152,274	231,497	662,235
徴 収 不 能 額	62,000	426,600	1,766,400
消費支出合計	1,233,788,614	1,191,888,820	1,131,134,545
消費収支差額	△ 18,124,454	△ 109,450,158	△ 140,187,194
帰属収支差額	20,511,395	△ 72,634,110	△ 15,201,206

③ 貸借対照表の経年比較

(単位 円)

科 目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
固 定 資 産	7,138,827,071	7,045,579,532	6,975,154,798
土 地	760,590,503	760,590,503	760,590,503
建 物	2,447,516,998	2,356,509,928	2,364,034,968
特 定 資 産 (預 金)	3,440,378,918	3,450,809,308	3,365,461,895
そ の 他	490,340,652	477,669,793	485,067,432
流 動 資 産	524,994,716	498,857,534	545,646,807
現 金 預 金	437,369,220	405,343,654	483,461,443
そ の 他	87,625,496	93,513,880	62,185,364
資 産 の 部 合 計	7,663,821,787	7,544,437,066	7,520,801,605
固 定 負 債	405,821,257	372,579,012	353,611,946
流 動 負 債	226,342,975	212,834,609	223,367,420
負 債 の 部 合 計	632,164,232	585,413,621	576,979,366
第 1 号 基 本 金	5,957,167,457	5,993,983,505	6,118,969,493
第 2 号 基 本 金	300,000,000	300,000,000	0
第 3 号 基 本 金	300,000,000	300,000,000	300,000,000
第 4 号 基 本 金	88,000,000	88,000,000	88,000,000
基本金の部合計	6,645,167,457	6,681,983,505	6,506,969,493
消費収支差額の部合計	386,490,098	277,039,940	436,852,746

④ 主要財務比率の経年比較

<消費収支比率>

(単位 %)

比 率	算式 (×100)	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	98.4	106.5	101.4
消費支出均衡率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	101.5	110.1	114.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	68.0	72.2	64.8
経費比率	$\frac{\text{経費}}{\text{帰属収入}}$	28.5	33.6	35.8
教育研究費比率	$\frac{\text{教育経費}}{\text{帰属収入}}$	20.8	25.3	26.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	7.7	8.3	9.4
借入金利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$	0.7	0.7	0.5
納付金依存率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	53.0	51.5	49.5
補助金依存率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	29.6	32.3	36.2

<貸借対照表比率 >

(単位 %)

比 率	算式 (×100)	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
現預金比率	$\frac{\text{現預金}}{\text{流動負債}}$	193.2	190.5	216.4
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.2	7.8	7.7
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債+自己資金}}$	96.0	96.1	95.6
前受金保留率	$\frac{\text{現預金+短期有価証券}}{\text{前受金}}$	279.9	273.6	306.5
退職引当金資産 積 立 率	$\frac{\text{退職給与積立金}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	100.0
特定資産保有率	$\frac{\text{特定資産+長期有価証券}}{\text{総資産}}$	44.9	45.7	44.7
自己資金増減率	$\frac{\text{期末}}{\text{前期末}}$	100.3	99.0	99.8
基本金充足率	$\frac{\text{基本金}}{\text{要組入額}}$	98.4	98.6	98.7

※ 自己資金＝基本金+消費収支差額

財 産 目 録

平成 23 年 3 月 31 日

科	目		年	度	末
一	資 産 額				
(一)	基本財産				
1	土地				
	校地	久留米市御井町 2278 番地の 1 他 34 筆	56,420.85	m ²	760,590,503 円
2	建物				
	校舎	短期大学校舎 1 号館他 17 棟	27,448.90	m ²	2,364,034,968 円
3	構築物				114,326,965 円
4	教育研究用機器備品		12,483	点	88,748,546 円
5	その他の機器備品		1,161	点	10,716,444 円
6	図書		108,509	冊	247,807,609 円
7	車両		6	台	4,631,658 円
8	電話加入権		15	件	1,157,700 円
9	建設仮勘定 (耐震設計)				2,121,000 円
(二)	運用財産				
1	現金・預金				
	現金	現金手元有高	109,270	円	
	普通預金	西日本シティ銀行他 1 3 口	483,352,173	円	
		小計			483,461,443 円
2	積立金				
		退職給与引当特定資産	228,608,000	円	
		減価償却引当特定資産	2,053,917,103	円	
		施設整備引当特定資産	770,000,000	円	
		奨学基金引当特定資産	300,000,000	円	
		国際交流引当特定資産	12,936,792	円	
		小計			3,365,461,895 円
3	預託金				12,662,700 円
4	出資金				409,500 円
5	長期貸付金				2,485,310 円
6	未収入金				
		退職金財団 (社団) 交付金	23,772,600	円	
		校納金	1,079,750	円	
		国庫補助金	17,683,000	円	
		久留米市補助金	1,171,200	円	
		保育士養成委託費	567,000	円	
		小計			44,273,550 円
7	販売用品				
		給品部棚卸			3,850,614 円
8	立替金	修学旅行費他			2,211,200 円
9	修学旅行預金				
		高等学校	8,400,000	円	
		中学校	3,000,000	円	
		小計			11,400,000 円
	資 産 合 計				7,520,351,605 円

科 目	年 度 末
二 負 債 額	
1 固定負債	
(1) 長期借入金	
日本私立学校振興・共済事業団	49,980,000 円
西日本シティ銀行	62,156,007 円
小計	112,136,007 円
(2) 退職給与引当金	228,608,819 円
(3) 長期未払金	
図書館システムリース料	12,867,120 円
2 流動負債	
(1) 短期借入金	
日本私立学校振興・共済事業団	16,660,000 円
西日本シティ銀行	10,058,607 円
小計	26,718,607 円
(2) 未払金	
退職金財団掛金	3,623,040 円
私学共済掛金	3,693,095 円
図書館システムリース料	3,216,780 円
耐震設計料	2,121,000 円
小計	12,653,915 円
(3) 前受金	
授業料	47,437,500 円
入学金	36,430,000 円
施設設備資金	38,920,000 円
教育充実費	21,120,000 円
冷暖房費	880,000 円
実験実習費	6,335,000 円
寮費	6,594,000 円
小計	157,716,500 円
(4) 預り金	
私学共済掛金個人負担金	236,231 円
委託徴収費	4,338,770 円
卒業アルバム代	1,254,000 円
校納金過誤納金	2,743,479 円
献金	149,005 円
修学旅行費	12,373,945 円
生徒会費	2,431,939 円
クラス費	872,269 円
副読本・LL教材費	49,980 円
合宿研修	8,730 円
模試代	404,230 円
新年度幼稚園絵本代	1,255,820 円
新年度つぼみ・アンジェリーナ	100,000 円
オーバーコート代	60,000 円
小計	26,278,398 円
負債合計	576,979,366 円
差引正味財産	6,943,372,239 円

監査報告書


平成23年5月12日


学校法人 久留米信愛女学院

理事長 村田 初子 殿

評議員会 議長 殿

学校法人 久留米信愛女学院

監事 平田 初女 

監事 大淵 澄洋 

私たちは、学校法人久留米信愛女学院の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学院の平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上